

中央環境審議会循環型社会部会（第62回）

リサイクル素材としての プラスチックの役割と限界

～エフピコ方式の資源循環型リサイクルから見るサーキュラーエコノミー～

株式会社エフピコ サステナビリティ推進室

2025年10月30日

■事業内容

●社名：株式会社エフピコ

(旧社名：福山パール紙工株式会社)

●事業内容： プラスチック製簡易食品容器製造・販売

●本社：広島県福山市 ●設立：1962年（昭和37年）7月

●2025年3月期 売上：2,356億円（連結）
 経常利益：184億円（連結）

●従業員数：988名（グループ総数5,250人）

●生産工場 20拠点、リサイクル工場 3拠点

減容・選別センター 10拠点
配送センター 9拠点
ピッキングセンター 10拠点



・信頼の証
エフピコマーク

・環境にやさしい
エコマーク登録商品



■全国に製造・物流・販売 拠点があります。

エフピコグループの製造・物流・販売・リサイクルネットワーク

★本社

- ・福山本社(広島県福山市)
- ・東京本社(東京都新宿区)

★支店

- ・大阪支店(大阪府大阪市)

●営業所

- ・札幌営業所(北海道札幌市)
- ・仙台営業所(宮城県仙台市)
- ・静岡営業所(静岡県静岡市)
- ・新潟営業所(新潟県新潟市)
- ・北陸営業所(石川県金沢市)
- ・名古屋営業所(愛知県名古屋市)
- ・広島営業所(広島県広島市)
- ・四国営業所(香川県高松市)
- ・福岡営業所(福岡県福岡市)

●生産工場

- ・北海道工場(北海道石狩市)
- ・山形工場(山形県寒河江市)
- ・関東工場(茨城県八千代町)
- ・関東八千代工場(茨城県八千代町)
- ・関東エコペット工場(茨城県八千代町)
- ・関東下館工場(茨城県筑西市)
- ・筑西工場(茨城県筑西市)
- ・関東つくば工場(茨城県下妻市)
- ・富山工場(富山県射水市)
- ・中部工場(岐阜県輪之内町)
- ・中部エコペット工場(岐阜県輪之内町)
- ・近畿亀岡工場(京都府亀岡市)
- ・笠岡工場(岡山県笠岡市)
- ・関西工場(兵庫県小野市)
- ・福山工場(広島県福山市)
- ・神辺工場(広島県福山市)
- ・四国工場(高知県南国市)
- ・九州工場(佐賀県吉野ヶ里町)
- ・南郷工場(宮崎県日南市)
- ・鹿児島工場(鹿児島県鹿児島市)

●リサイクル工場 / 選別・減容センター

- ・関東リサイクル工場(茨城県八千代町)
- ・関東PETリサイクル工場(茨城県八千代町)
- ・中部リサイクル工場(岐阜県輪之内町)
- ・中部PETリサイクル工場(岐阜県輪之内町)
- ・福山リサイクル工場(広島県福山市)
- ・北海道減容センター(北海道石狩市)
- ・山形選別センター(山形県寒河江市)
- ・茨城選別センター(茨城県八千代町)
- ・東海選別センター(静岡県長泉町)
- ・松本選別センター(長野県松本市)
- ・金沢選別センター(石川県金沢市)
- ・岐阜選別センター(岐阜県輪之内町)
- ・西宮選別センター(兵庫県西宮市)
- ・福山選別センター(広島県福山市)
- ・佐賀選別センター(佐賀県神埼市)
- ・西日本ペットボトルリサイクル(福岡県北九州市)

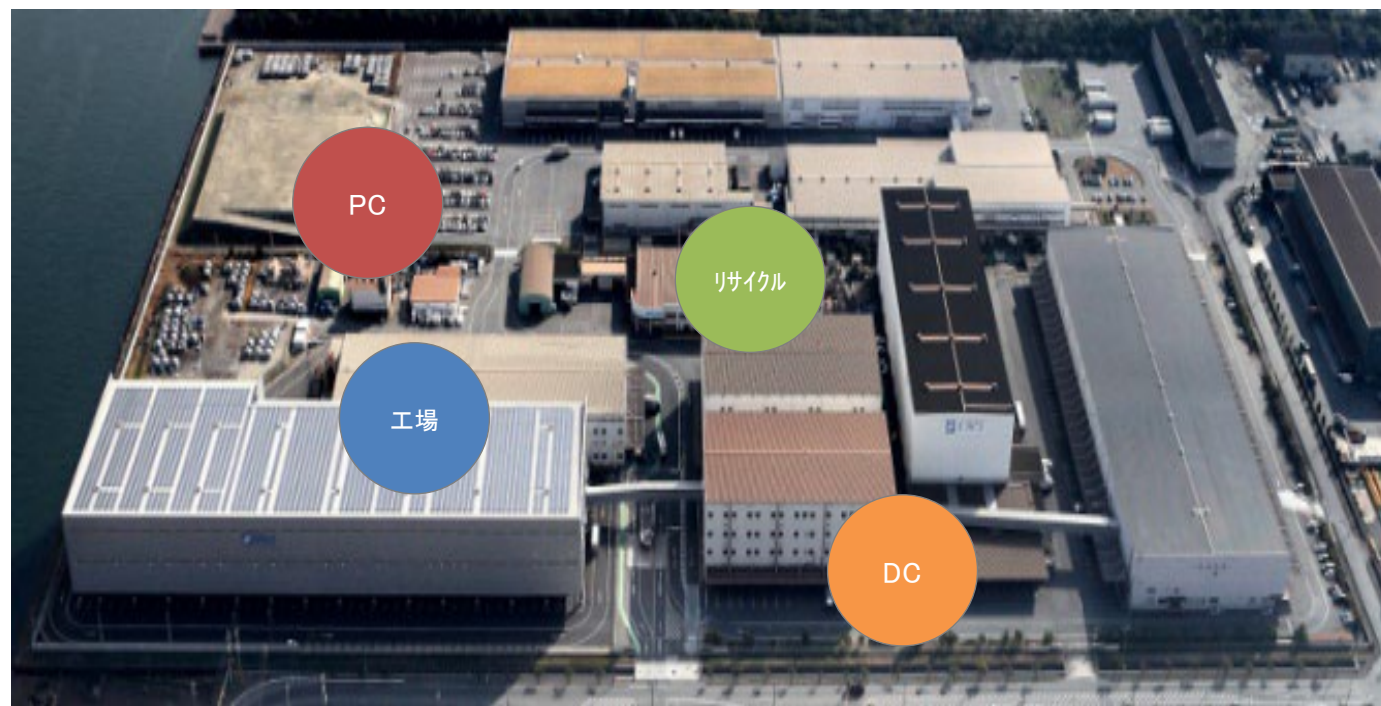
●配送センター / ピッキングセンター

- ・北海道配送センター(北海道石狩市)
- ・東北配送センター(山形県寒河江市)
- ・関東ハブセンター(茨城県八千代町)
- ・八王子配送センター(東京都八王子市)
- ・東海配送センター(静岡県長泉町)
- ・中部ハブセンター(岐阜県輪之内町)
- ・関西ハブセンター(兵庫県小野市)
- ・福山ハブセンター(広島県福山市)
- ・九州配送センター(佐賀県吉野ヶ里町)
- ・北海道ピッキングセンター(北海道石狩市)
- ・東北ピッキングセンター(宮城県大衡村)
- ・関東ピッキングセンター(茨城県八千代町)
- ・茨城ピッキングセンター(茨城県八千代町)
- ・八王子ピッキングセンター(東京都八王子市)
- ・新潟ピッキングセンター(新潟県長岡市)
- ・中部ピッキングセンター(岐阜県輪之内町)
- ・関西ピッキングセンター(兵庫県神戸市)
- ・福山ピッキングセンター(広島県福山市)
- ・九州ピッキングセンター(佐賀県吉野ヶ里町)

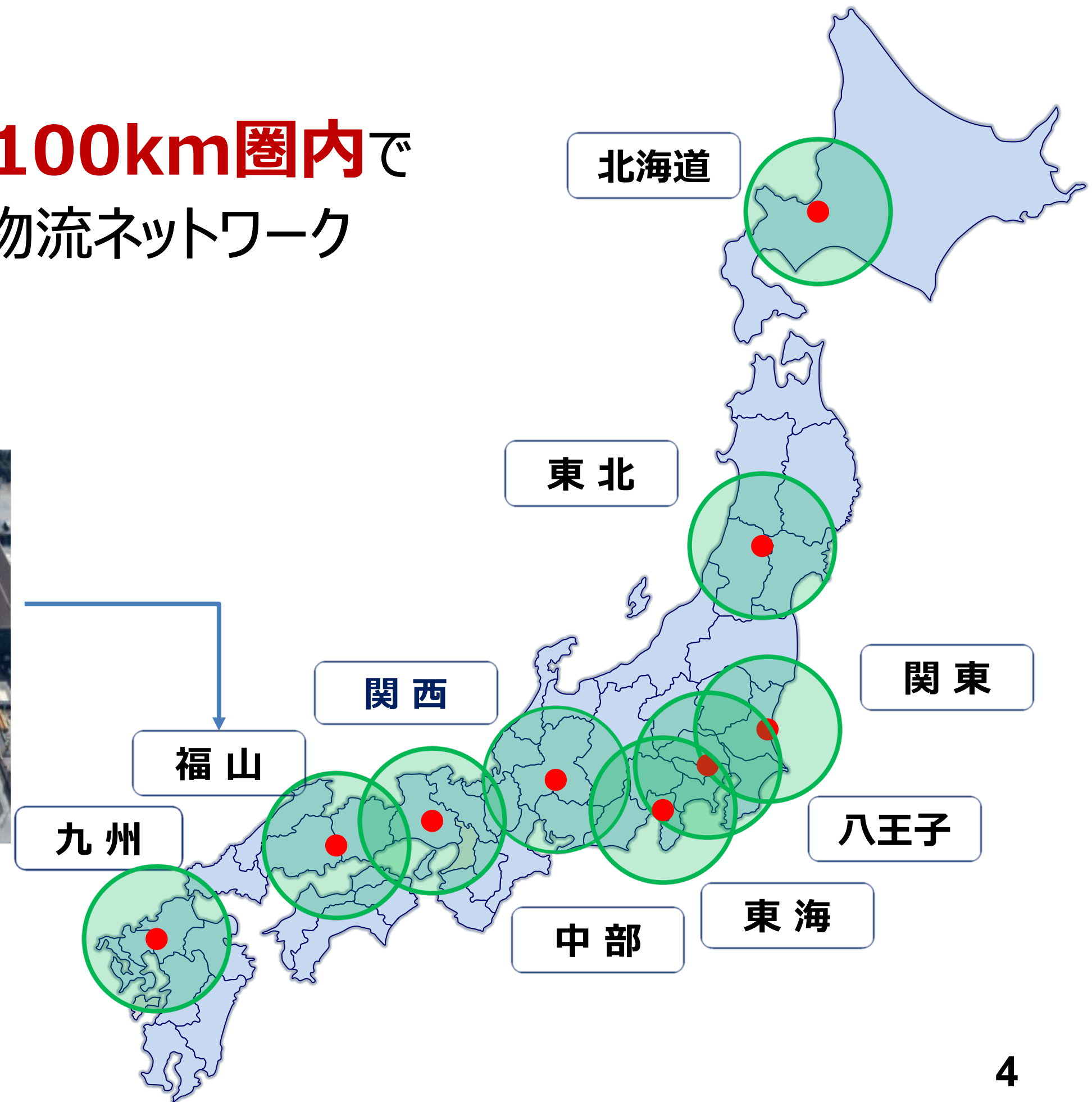
・プラスチック製容器の特徴

軽い・嵩張る・安価

全国9カ所の物流拠点から**半径100km圏内**で
全人口の85%をカバーする物流ネットワーク



- 効率化
生産工場・物流センター・リサイクル工場を
一か所に集めて配置



■プラスチック製品を取り巻く直近の環境問題

海洋プラ汚染 (脱プラ)



2018年 プラスチック資源循環戦略

2019年 海洋プラスチックごみ問題
マイクロプラスチック

プラスチック 国内循環



2020年7月 レジ袋有料化

2020年 バーゼル条約
資源の国内循環の機運の高まり

気候変動



2021年 気候変動対策（GHG対策）
地球温暖化対策の強化

2022年プラスチック資源循環戦略施行

■ 『エフピコ方式リサイクル』のポイント『入口と出口』

入口

回収システムの構築



リサイクル

再資源化工場



出口

エコトレーへ



学校・自治体・指定法人ルートによる回収も

お店で使ったものを回収して、リサイクル、そしてまたお店で使う分かり易い『水平リサイクル』の仕組みで、この工程をすべて自社で行っています。

■能力を最大限に活かす『ダイバーシティー経営』

選別

使用済み食品トレー、
透明容器、PETボトル



製造

食品トレー容器の成形、
組立加工、検品、包装



職域拡大への挑戦



エフピコグループ内の一般工場、物流の現場

特例子会社(エフピコダックス)・就労継続支援A型事業所(エフピコ愛パック)

エフピコグループ 2025年3月時点

障がい者雇用人数 : 401名

障がい者雇用換算数 : 676名

障がい者雇用率 : 12.6%

障がい者雇用に関する評価

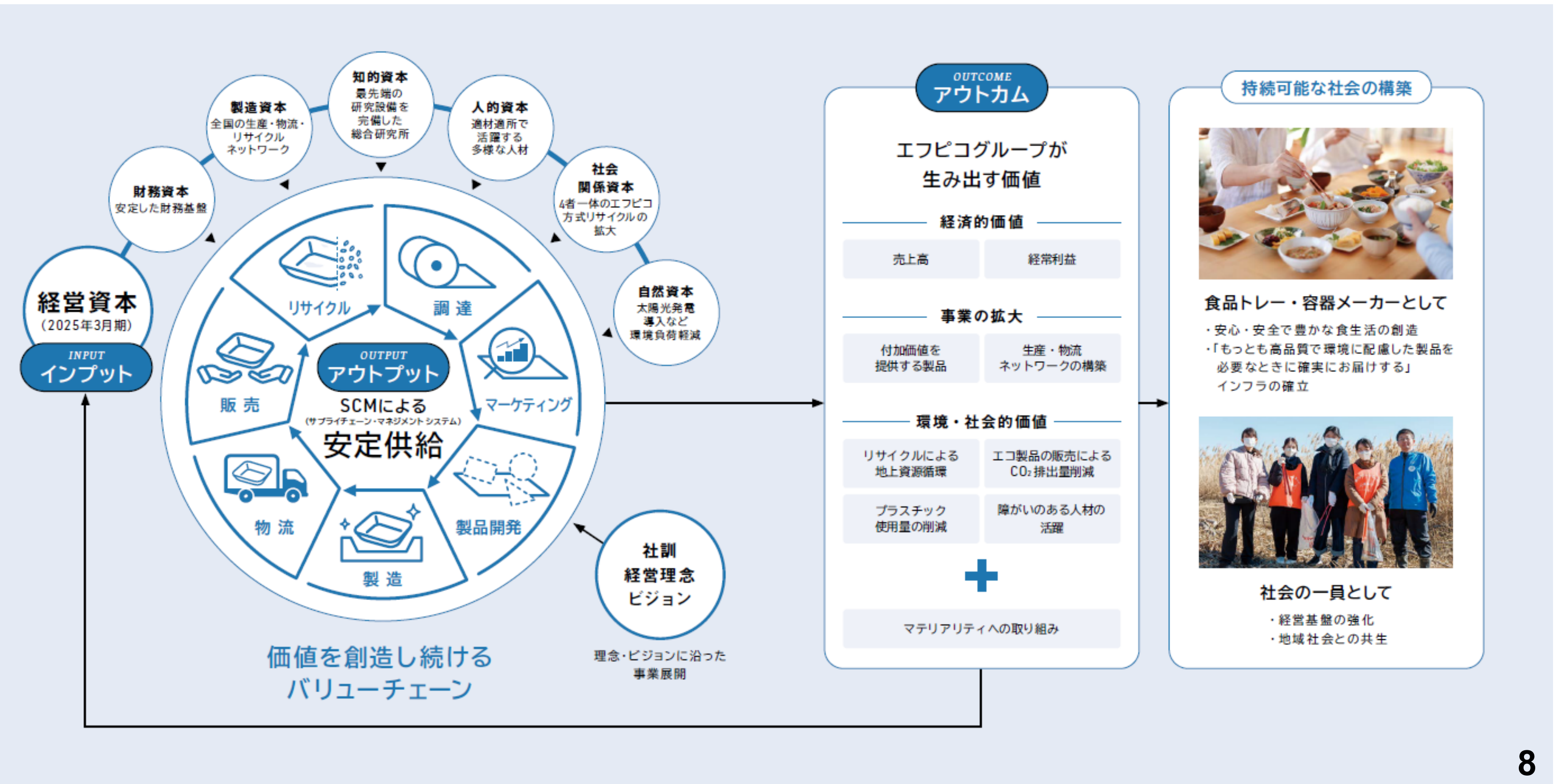
■2019年1月 (厚労省)
「H30年度 障害者活躍企業」認証
(エフピコダックス(株))

■2024年9月 (東洋経済新報社)
「障害者雇用率ランキング」 3位

■2022年6月 (厚労省)
「障害者雇用に関する優良な中小事業主に対する認定」
(もにす認定) (エフピコダックス(株))



■エフピコのバリューチェーン



INPUT
インプット

価値創造のための6つの経営資本（2025年3月期）

資産合計 2,985億円（2024年3月期） ↓ 2,922億円	財務資本 安定した収益基盤と健全な財務体質を通じ、持続的な成長と投資を支えています。	自己資本比率 48.6%（2024年3月期） ↓ 52.5%
設備投資額 95.9億円（2024年3月期） ↓ 161.1億円	製造資本 最新の設備や技術を導入し、高品質な製品の生産と供給体制の強化を図っています。	生産工場 21工場（2024年3月期） ↓ 21工場
研究開発費 14.8億円（2024年3月期） ↓ 15.4億円	知的資本 独自の製品開発力やリサイクル技術を始めた革新的なソリューションを生むための研究開発を行っています。	意匠登録件数 145件（登録機関年度2023） ↓ 156件 （登録機関年度2024）
連結従業員数 5,104名（2024年3月期） ↓ 5,250名	人的資本 社員の専門性向上や働きやすい環境づくりに注力し、組織の活力を高めています。	障がい者雇用率 12.6%（2024年3月期） ↓ 12.6%
使用済み容器回収拠点数 10,680カ所（2024年3月期） ↓ 11,000カ所	社会関係資本 消費者や顧客等を含めた、地域社会との信頼関係を築いています。	プラスチック資源回収量 10,500t（2024年3月期） ↓ 11,000t
CO₂排出量 約18.7万t（2024年3月期） ↓ 約17.4万t	自然資本 リサイクル事業、エコ製品の開発・製造・販売、太陽光発電等による環境負荷の低減を行っています。	エコ製品販売によるCO₂削減量 約20.2万t（2024年3月期） ↓ 約20.9万t

OUTCOME
アウトカム

エフピコグループが生み出す価値（2025年3月期）

売上高 2,221億円（2024年3月期） ↓ 成果 2,356億円	経済的価値 効率的な生産・物流体制と環境配慮型製品の提供で、競争力と安定した収益を実現。	経常利益 167億円（2024年3月期） ↓ 成果 184億円
--	---	---

事業の拡大 ①付加価値を提供する製品の開発 成果 オリジナル素材：8種類 オリジナル素材の出荷枚数ベース：68% ②生産・物流ネットワークの構築 成果 配送センターから100キロ圏内において日本の人口の約85%をカバー ③M&Aによる九州地区の販売力強化を含むグループインフラの活用 ④冷凍、病院・介護給食等新マーケットの開拓 ⑤新素材による新たな事業領域への進出 ⑥マレーシアを拠点とした海外市場の拡大	環境・社会的価値 リサイクルによる地上資源循環 成果 溶解分離リサイクル技術によるエコトレー販売増加率（前年度比）：約30%増加（見込み） 成果 エコトレー販売によるCO₂排出量削減率：37%（2024年7月出荷分～） 成果 プラスチック使用量の削減率：約60%（祝賀桶、氷河桶） 成果 障がいのある人材の活躍 障がいのある社員数：401名 障がい者雇用率：12.6%
---	---

調達部門

PSP原反仕入れ実績

リサイクル素材

50% ▶ **65**%
(2024年) (2025年)

バージン素材

50% ▶ **35**%
(2024年) (2025年)

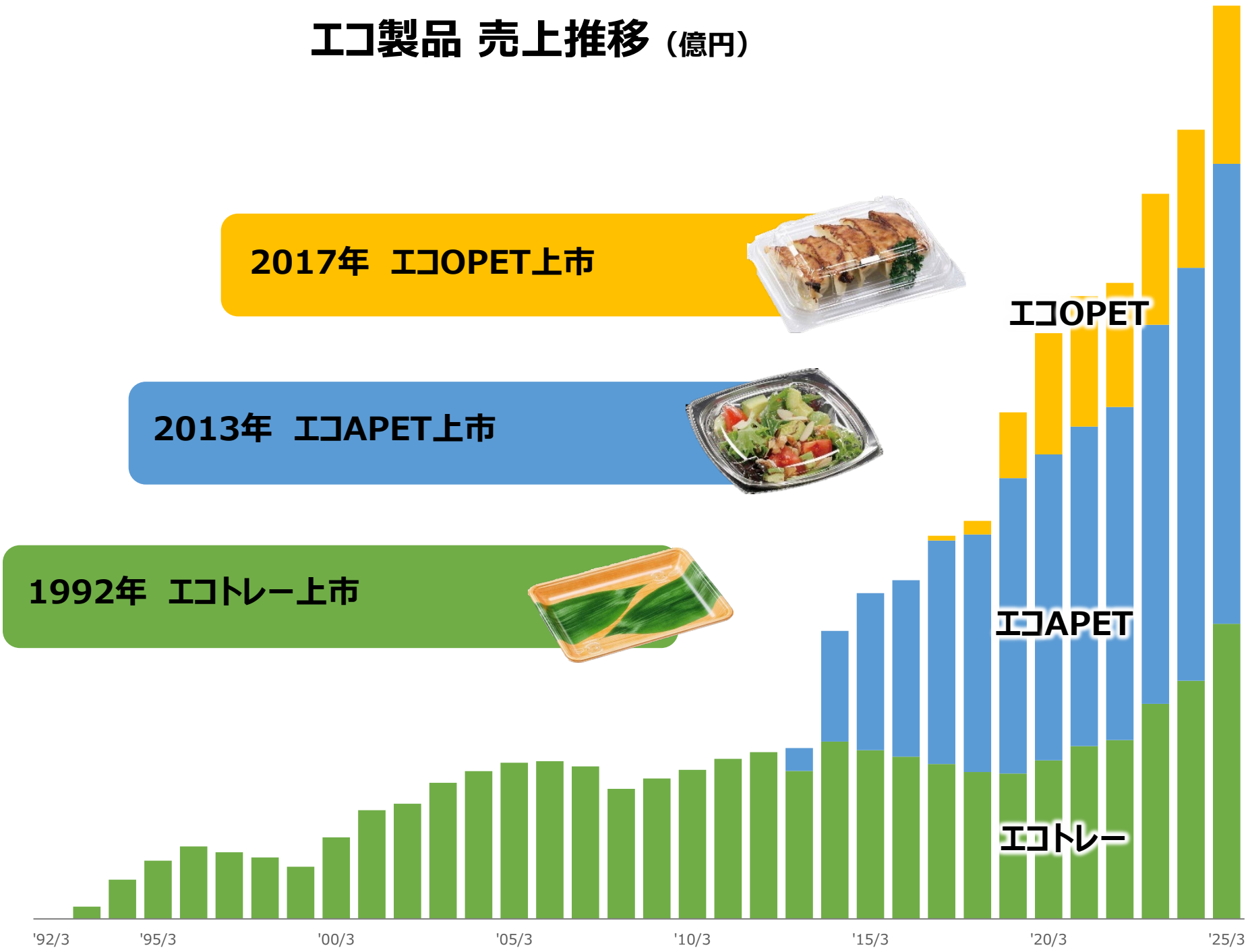
溶解分離リサイクルの確立でエコトレーの製造が

3割増加（見込み）

CSR調達方針について

■エコ製品の販売実績

エコ製品 売上推移 (億円)



2025年3月期

エコ製品売上

前年比 115%

913億円

製品全体のエコ化率

(枚数ベース)

前年比 103%

51%

PET製品エコ化率

100%

■プラスチック資源の回収

※枚数・本数は、標準的なグラム数にて換算
PSP：4 g、透明容器：10 g、
PETボトル：25 g



■気候変動対応 エコ製品によるCO2排出量削減

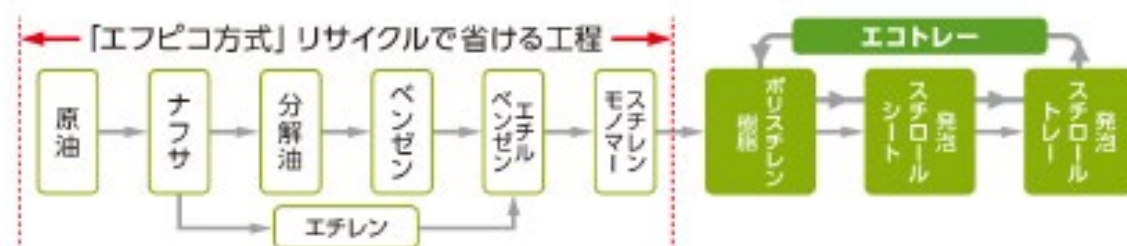
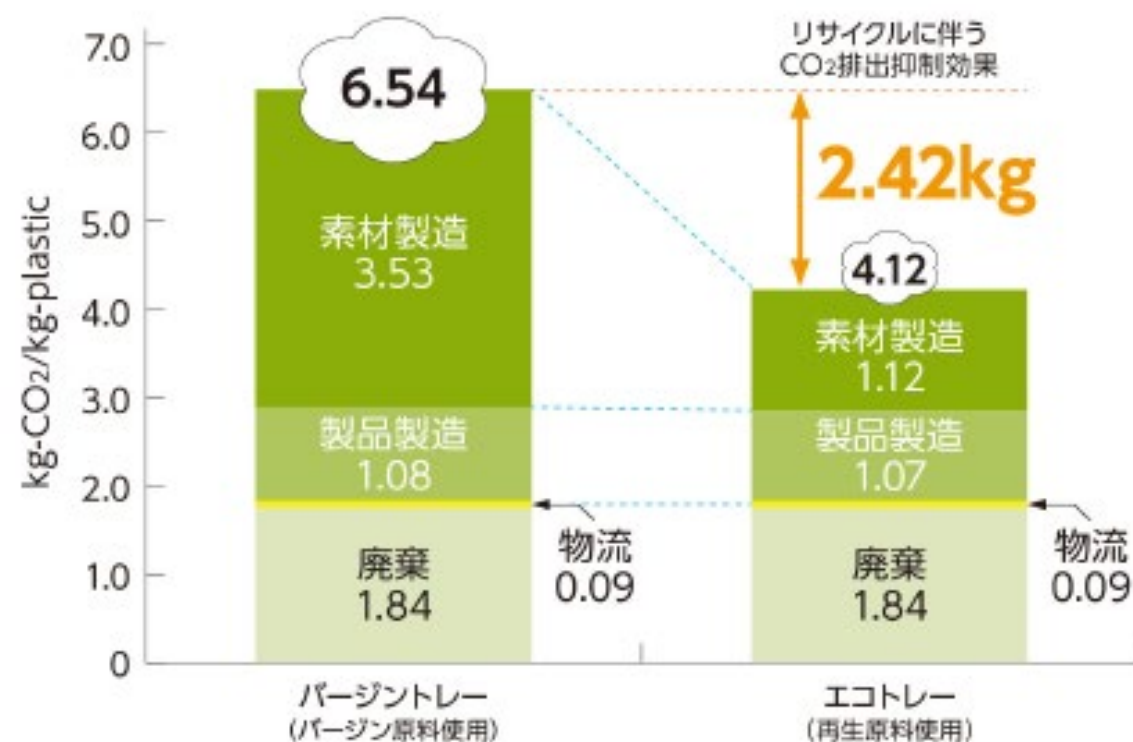


CO₂排出量
-37%

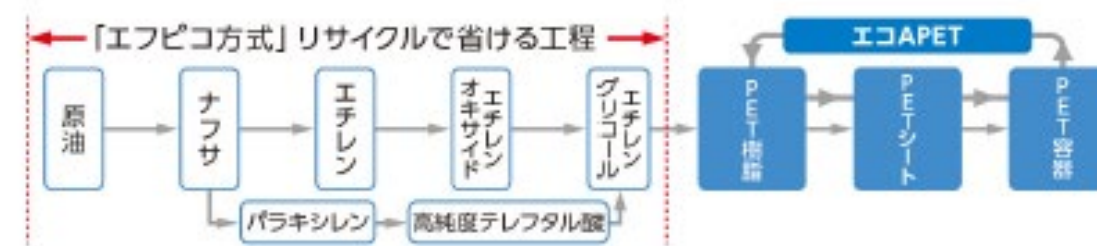
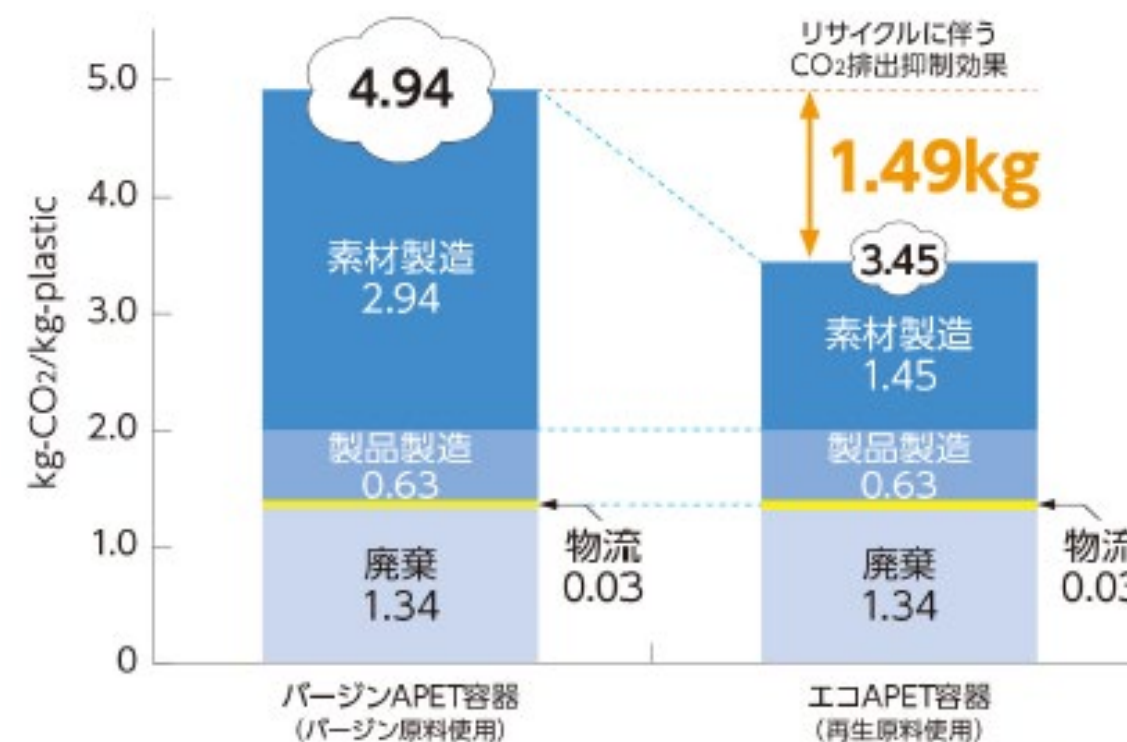


CO₂排出量
-30%

バージントレーとエコトレのCO₂排出量の比較



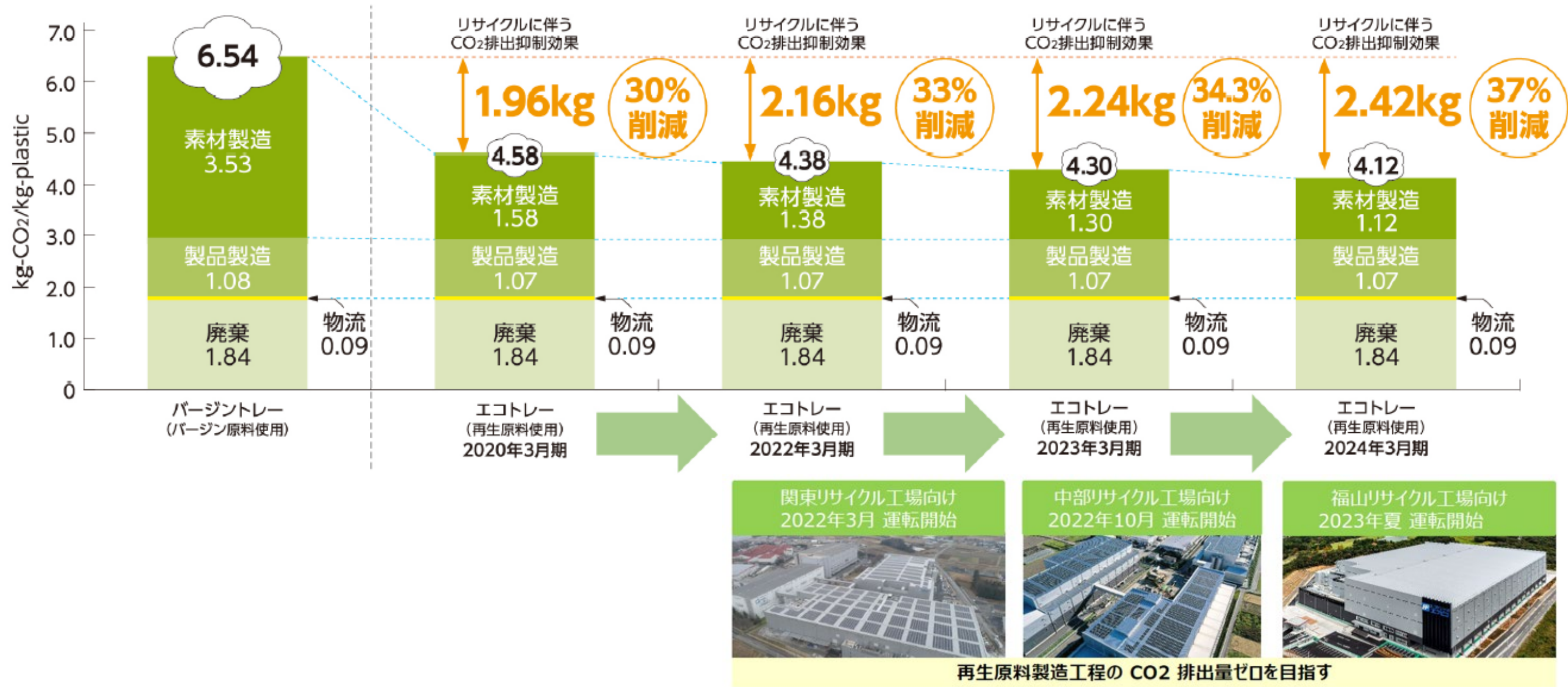
バージンAPET容器とエコAPET容器のCO₂排出量の比較



■ リサイクルの進化にチャレンジ

太陽光発電

バージントレーとエコトレのCO₂排出量の比較

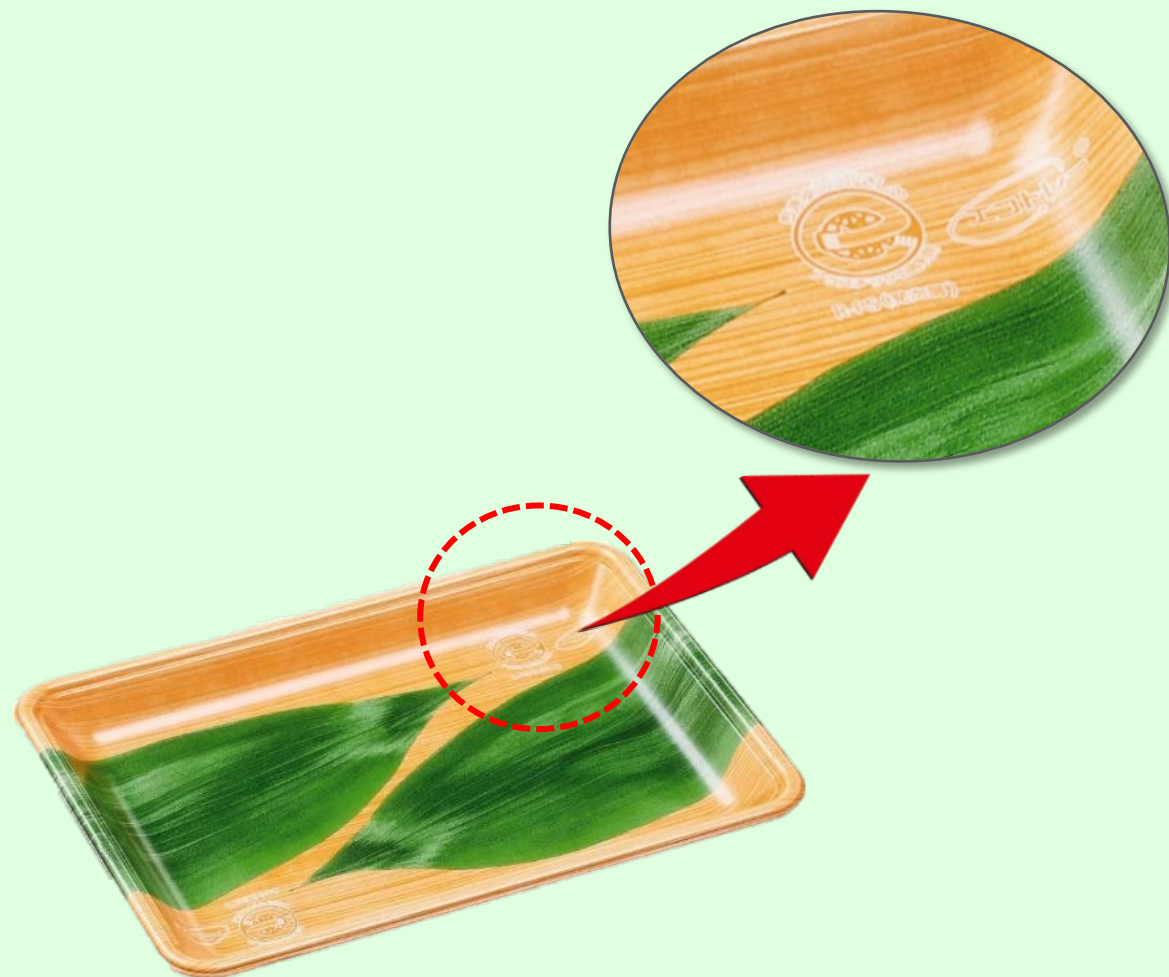


■エコ製品の消費者への訴求



エコ製品に「エコマーク」

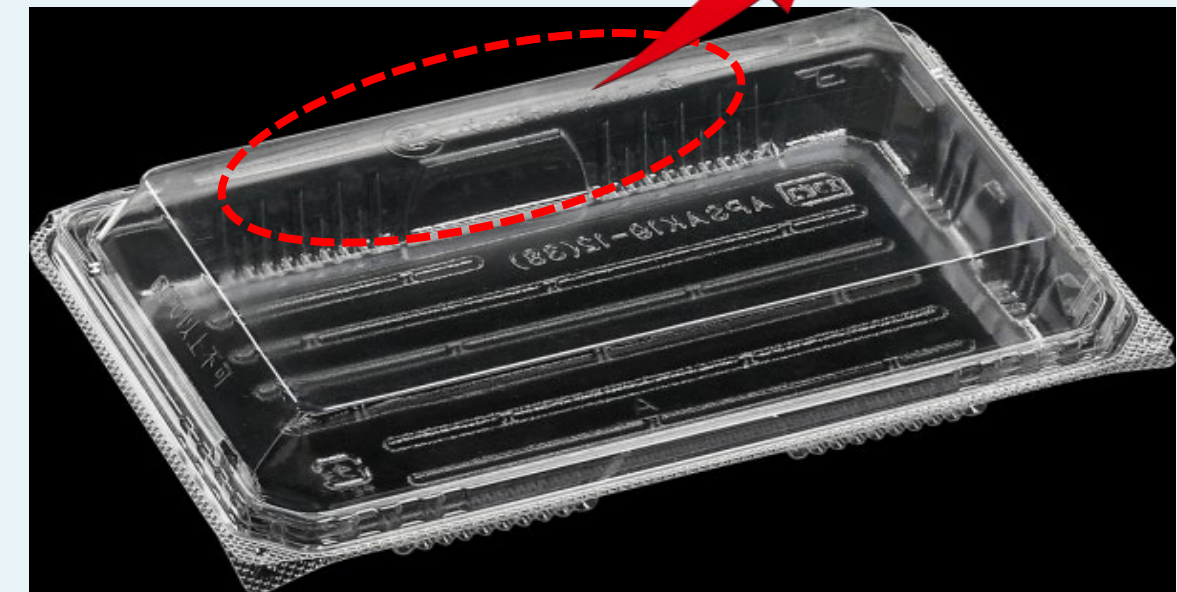
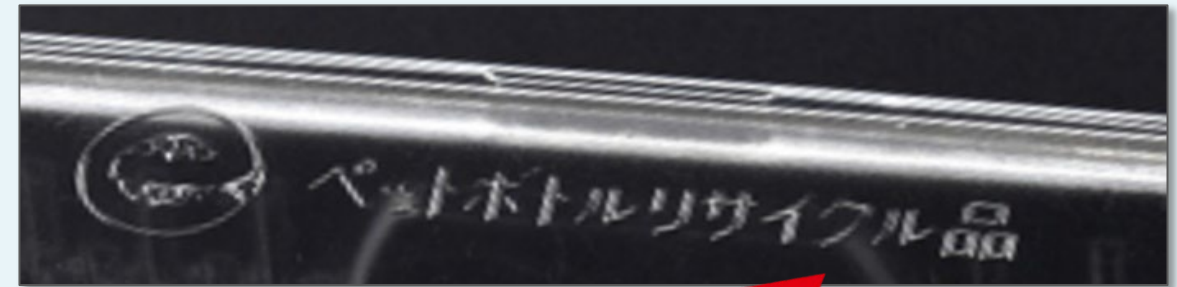
エコトレー



エコトレー全製品に表示済み

「ペットボトルリサイクル品」を刻印

エコAPET・エコOPET



売れ筋製品より順次刻印追加

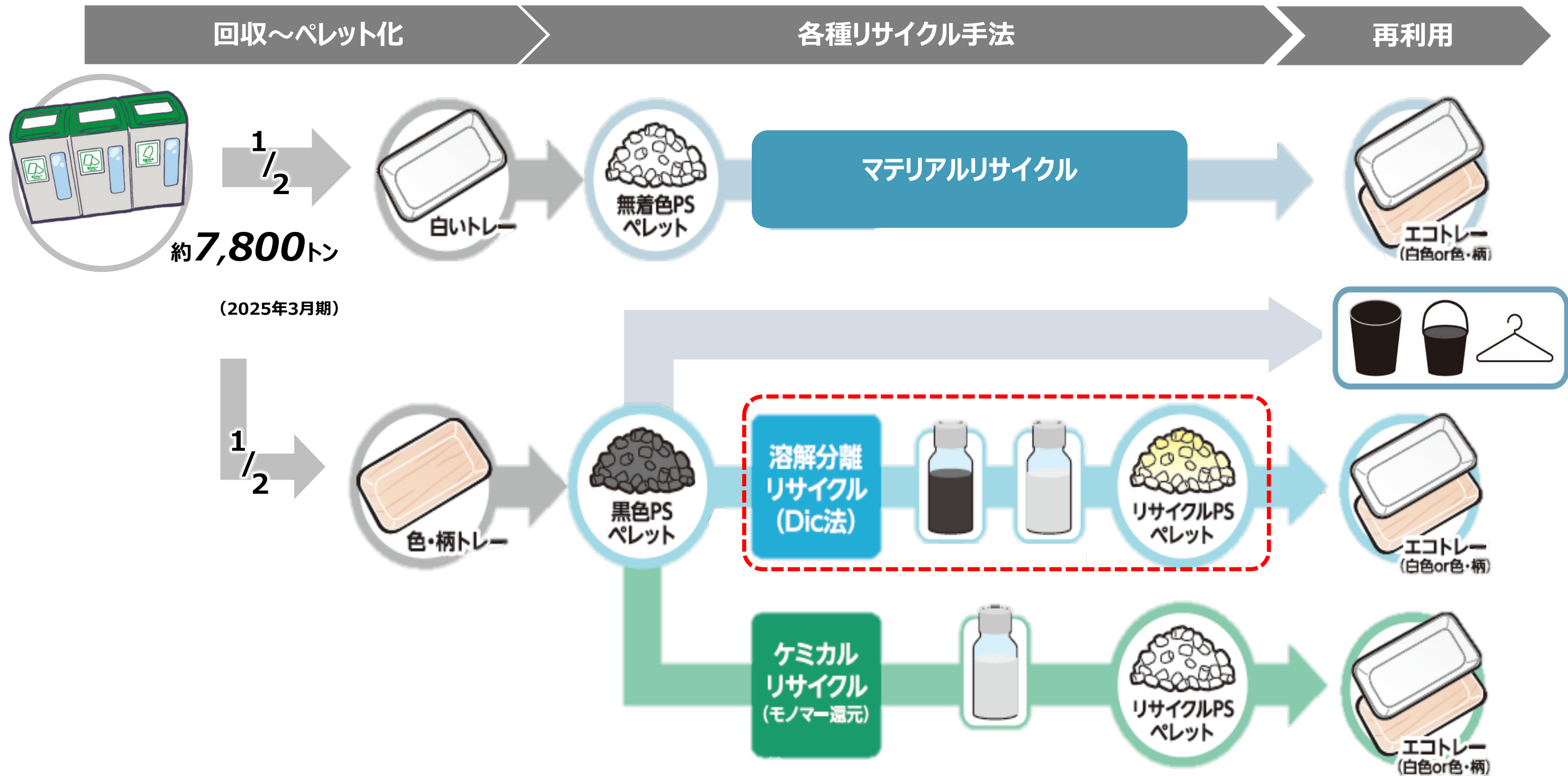
■ 「ストアtoストア」の水平リサイクル

お店で使用・販売した食品トレー・ペットボトルは
そのお店で資源として回収し、食品トレー・透明容器に再生して、
また そのお店で積極的に使用する

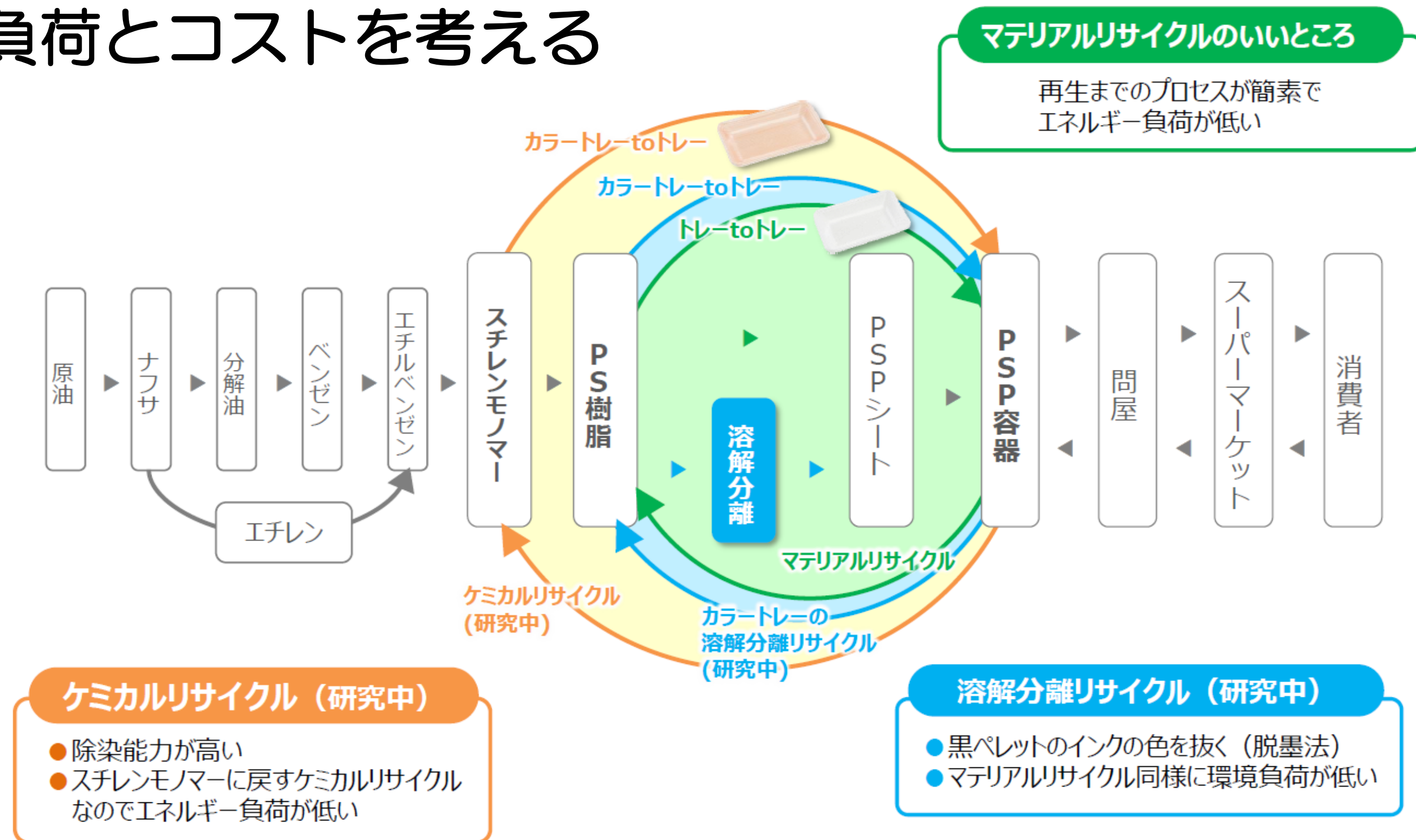
■ 環境発信はお店の売り場へ



■食品トレー完全循環型リサイクルに向けた協業

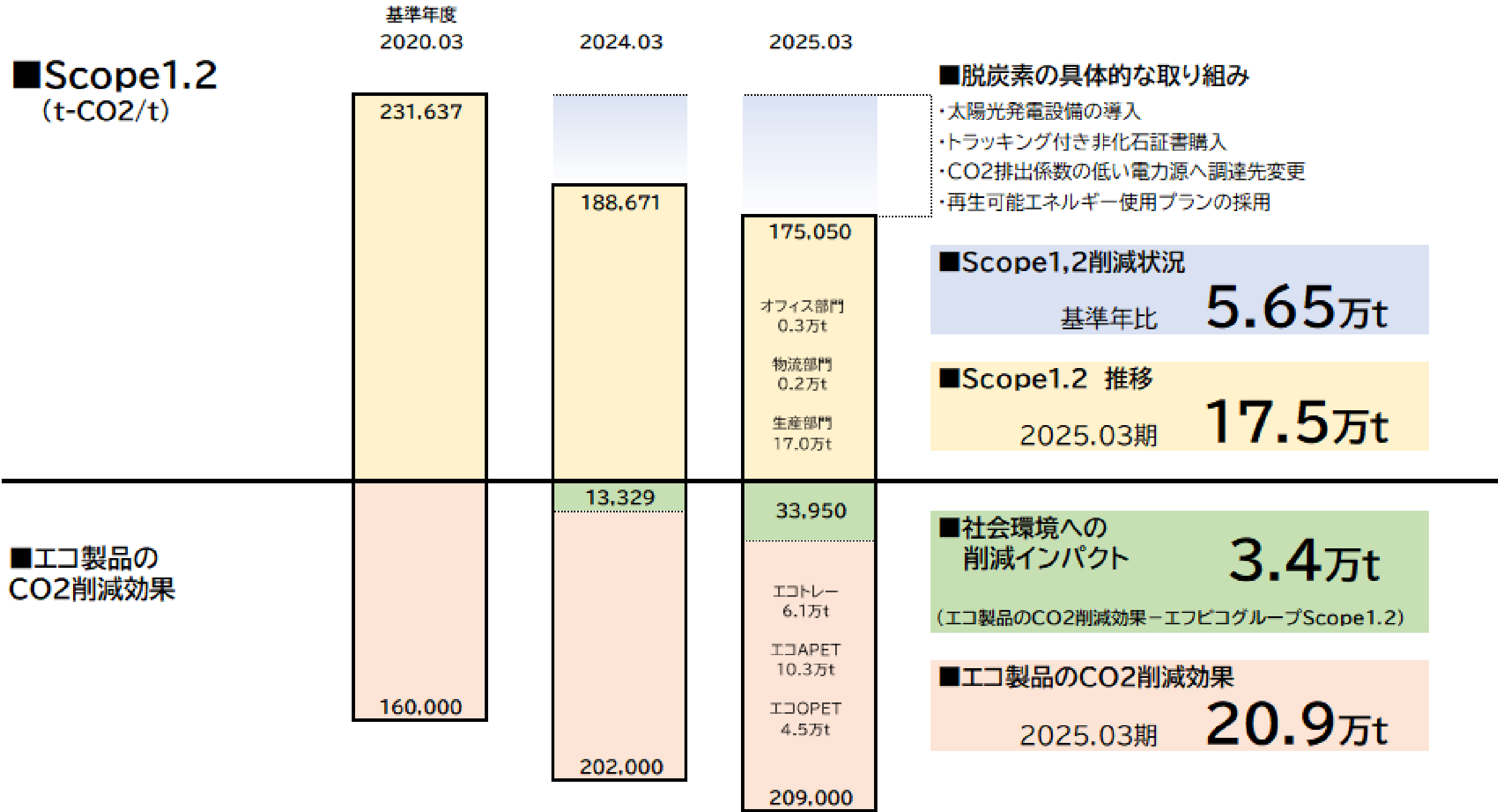


■ポリスチレンの完全循環に向けて 環境負荷とコストを考える



■エフピコグループ環境課題への取り組み

当社グループのサプライチェーン全体における自社CO2排出量(Scope1.2)と、エコ製品の販売によるCO2削減効果(Scope4)の関係図



当社では、社会価値と経済価値のさらなる拡大を目指し、エコ製品が社会や環境に与える影響を示すインパクト指標として、CO2削減貢献量を計測しております。 2024年3月期には、エコ製品の販売によるサプライチェーン上のCO2削減効果が自社の活動におけるCO2排出量(Scope1.2)を上回りました。 今後も脱炭素社会の実現に向け取り組んでいきます。



エフピコ環境基金
The FP Corp. Environment Fund

<https://www.fpcorp.jp/esg/environmenteffort/environmentalfund.html>



2020年3月
「エフピコ環境基金」創設

2021年3月期： 10団体
2022年3月期： 14団体
2023年3月期： 14団体
2024年3月期： 22団体
2025年3月期： 17団体
2026年3月期： 17団体

累計 94団体助成

エフピコ環境基金について

海洋プラスチックごみ問題及び気候変動をはじめとする環境問題は、様々な要因が複雑に絡み合い、大きな問題となっています。エフピコでは1990年に6店舗のスーパーマーケットの店頭で使用済み食品トレー回収ボックスを設置して、「トレーto トレー」のリサイクルをスタートさせ、拠点は9,800ヶ所を超える(2020年12月)までになりました。

皆様のお陰で容器包装リサイクル法に基づく分別・収集の仕組みと合わせて、使用済み食品トレーを資源として有効利用する社会インフラとして定着しております。

更に、近年の地球規模の環境問題に対してさまざまな角度から活動をされている団体を助成すべく、2020年3月にエフピコ環境基金を創設致しました。

環境問題をテーマとする活動への当基金による助成を通じて、持続可能な社会の構築を地域の皆様とともに進めて参りたいと考えております。

トレードの未来

地球の未来を



“トレード to トレー”
“ボトル to 透明容器”

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

